令和8年度　1年生　後期中間考査　対策

国語　模擬テスト

星の花が降るころに／シジュウカラ／漢字の音訓／文の組み立て

組　　番	名前	得点　　／100

時間	**50分**（実際の考査と同じ想定）
配点	一＝16点／二＝14点／三＝30点／四＝18点／五＝12点／六＝10点
出題範囲	教科書の6つの範囲すべてから出しています（下の表）。
書き方	実際の考査は**縦書き**ですが、このテストは横書きです。 内容は同じなので、答え方だけ本番で切りかえてください。

教科書の範囲と、このテストの対応

教科書	内容	このテスト
P.106〜115	星の花が降るころに	四
P.116〜118	項目を立てて書こう／読み手の立場に立つ	六
P.124〜126	漢字の音訓／漢字に親しもう2	一
P.128〜139	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	五
P.147・246〜250	文法への扉2（文の組み立て）	三
P.315〜316	漢字「還」〜「駐」	二

この範囲で、点が動くのはどこか

1. **漢字と文法で60点ある。**読解より先にこちらを固めるほうが確実です。 特に**漢字の音訓**（一つの漢字が複数の読みをもつもの）は、範囲が「p.124〜126」と狭いので 全部取れます。
2. **文法は「まず述語を探す」。**主語より先に述語を見つけ、「そうするのは何（誰）か」と問い返すと主語が出ます。主語がない文もあるので、**「ない」と答える勇気**も必要です。
3. **読解は本文を覚えるのではなく、流れを覚える。**「星の花」は**心情の変化**、「シジュウカラ」は**仮説→検証→結論**。この骨組みさえ言えれば、聞かれ方が変わっても答えられます。

国語　後期中間考査 模擬テスト

50分　100点満点

一　次の――線の漢字の読み仮名を、ひらがなで書きなさい。　2点×8＝16点

(1) 明けの明星を見る。
(2) 星座の名前を覚える。
(3) 責任の有無を問う。
(4) 所望の品が届く。
(5) 愛情を込めて育む。
(6) 大志を抱く。
(7) 命令に背く。
(8) 調査団の一行が通る。

二　次の――線について、漢字は読み仮名をひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。　2点×7＝14点

(1) 十年来の知己。
(2) 技巧をこらす。
(3) 喝采を受ける。
(4) 曇天の空。
(5) 土地をヘンカンする。
(6) 記録をコウシンする。
(7) 権利をシュチョウする。

三　文の組み立てについて、次の問いに答えなさい。　30点

1　次の文を文節に区切り、区切りに ／ を書き入れなさい。　（3点×2＝6点）

(1) 小さな子犬が庭で元気に走り回る。
(2) 昨日は父もとても忙しかった。

2　次の各文から**主語**と**述語**を抜き出し、 その関係を後のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。
（各3点＝12点）

(1) 私はずっと庭にいました。
(2) どんなときも、芸術は人に強い印象を残す。
(3) いくら捜しても、手帳がありません。
(4) 委員長だ、彼こそ。

【関係】　**ア** 何が（誰が）どうする　**イ** 何が（誰が）どんなだ　**ウ** 何が（誰が）何だ　**エ** 何が（誰が）ある・いる　**オ** 何が（誰が）ない

三

3　次の各文の――線の文節は、どの文節を修飾しているか。その文節をそのまま抜き出しなさい。（2点×4＝8点）

(1) 山の上に大きな杉の木がある。

(2) 妹はゆっくりと本を読んだ。

(3) 昨日の試合はとても楽しかった。

(4) 弟が静かに部屋を出ていった。

4　**3**の(1)〜(4)の――線は、**連体修飾語**と**連用修飾語**のどちらか。それぞれ答えなさい。（1点×4＝4点）

> **見分け方**　修飾される文節が**体言（名前を表す語）**を含むなら**連体**修飾語、**用言（動作・変化・状態を表す語）**を含むなら**連用**修飾語です。

四

「星の花が降るころに」について、次の問いに答えなさい。 18点

1　次は、この作品の出来事と「私」の心情をまとめたものである。（　A　）〜（　D　）に当てはまる言葉を書きなさい。（2点×4＝8点）

① 「私」は、（　A　）の木の下で過ごした日のことを思い出す。

② 昼休み、「私」は（　B　）に無視されてしまう。

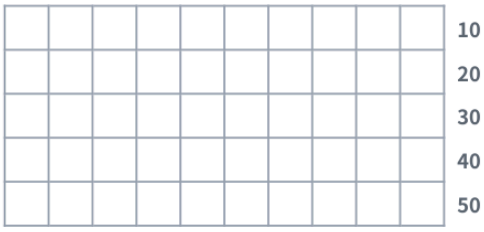
③ 放課後の校庭で、戸部君が一人で黙々と（　C　）をしているのを見る。

④ 公園のおばさんから、銀木犀は春先に（　D　）を落として、代わりに新しい葉を生やすという話を聞く。

2　次の問いに答えなさい。（(1)2点・(2)8点）

(1) 放課後の校庭で、「私」と戸部君が思わず二人で吹き出したのは、戸部君が何と言ったからか。本文中の言葉を書きなさい。

(2) 最後の場面で、「私」が銀木犀の木の下をくぐって公園を出たことには、「私」のどのような気持ちが表れているか。**四十字程度**で書きなさい。



五　「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」について、次の問いに答えなさい。　12点

1　（　A　）～（　D　）に当てはまる言葉を書きなさい。（1.5点×4＝6点）

① ヘビがシジュウカラの巣箱に迫ったとき、親鳥がヘビに接近して「ジャージャー」と鳴いた。――これが研究の（　A　）となった事実である。

② そこから筆者は、「ジャージャー」は（　B　）を意味する（　C　）ではないか、という（　D　）を立てた。

2　筆者は一つ目の検証だけでは不十分だと考え、 別の方法でも検証した。**なぜ一つ目の検証だけでは不十分なのか。**その理由を **三十字程度**で書きなさい。（6点）

										10
										20
										30
										40

六　次は、ある中学校が地域の人たちに向けて作った案内文の下書きである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。　10点

秋の文化祭を行います。場所は本校の体育館です。体育館は土足禁止ですので、 上履きをご持参ください。開会は午前九時です。展示は一日中ご覧になれます。 なお、駐車場がありませんので、車での来校はご遠慮ください。

(1) この案内文には、**基本的な情報**が一つ抜け落ちている。それは何か、書きなさい。（4点）

(2) この下書きを、**項目を立てて**整理し直すとき、「記」のあとに立てるとよい項目を**三つ**書きなさい。（3点）

(3) 推敲するときの観点として**適切でないもの**を一つ選び、記号で答えなさい。（3点）

ア　漢字や仮名づかい、送り仮名の誤りはないか。
イ　符号（句読点など）の使い方は適切か。
ウ　自分が書きたいことだけを書けているか。
エ　読み手に対して適切な表現になっているか。

解答用紙

国語　後期中間考査 模擬テスト

組　　番	名前	得点　　／100

一	1	2	3	4	5	6	7	8

二	1	2	3	4	5	6	7

三　文の組み立て

1（文節に区切る）は**問題用紙に直接**書きなさい。

2(1)	主語　　／　述語	記号	
2(2)			
2(3)			
2(4)			

3	(1)	(2)	(3)	(4)

4	(1)	(2)	(3)	(4)

四・五・六

四1	A	B	C	D

四2	(1)

五1	A	B	C	D

六	(3)

記述は問題用紙に書く

四2(2)・五2・六(1)(2) は**問題用紙の枠の中**に書いてください。 **字数指定（四十字程度・三十字程度）**のあるものは、指定の±2割に収めること。 字数が足りないだけで減点されます。

一　漢字の音訓　2点×8＝16点

解答　**(1)** みょうじょう　**(2)** せいざ　**(3)** うむ　**(4)** しょもう　**(5)** はぐくむ　**(6)** いだく　**(7)** そむく　**(8)** いっこう

この単元は「一つの漢字に複数の読みがある」が全部　明…明星（**ミョウ**）／明暗（メイ）、**有**…有無（**ウ**）／有益（ユウ）、**望**…所望（**モウ**）／希望（ボウ）。出るのは**めずらしいほうの読み**です。
(6)「抱く」は2通り　だく（赤ちゃんを抱く＝腕で持つ）と**いだく**（大志を抱く＝心に持つ）。意味で決まるので、必ず文全体を読むこと。
(8)「一行」も2通り　いっこう（団体）と**いちぎょう**（文の行）。「調査団の」とあるので団体のほうです。

二　漢字の読み書き　2点×7＝14点

解答　**(1)** ちき　**(2)** ぎこう　**(3)** かっさい　**(4)** どんてん　**(5)** 返還　**(6)** 更新　**(7)** 主張

書きで落としやすいのは(5)　返還の「還」は、教科書 P.315〜316 の漢字のページに入っている字です。しんにょうの中は「**景**」。「環」（たまへん＝輪の意味）と書き分けること。
(6)更新の「更」を「史」「吏」と書かないこと。**(7)主張**の「張」は「帳」「張」の使い分けに注意（弓へん）。

三　文の組み立て①（1・2）　18点

1　文節に区切る（3点×2）
(1)　小さな／子犬が／庭で／元気に／走り回る。
(2)　昨日は／父も／とても／忙しかった。

2(1)	**主語＝私は　述語＝いました　エ**	「ある・いる」の形　3点
2(2)	**主語＝芸術は　述語＝残す　ア**	「どうする」　3点
2(3)	**主語＝手帳が　述語＝ありません　オ**	「ない」　3点
2(4)	**主語＝彼こそ　述語＝委員長だ　ウ**	「何だ」。語順が逆　3点

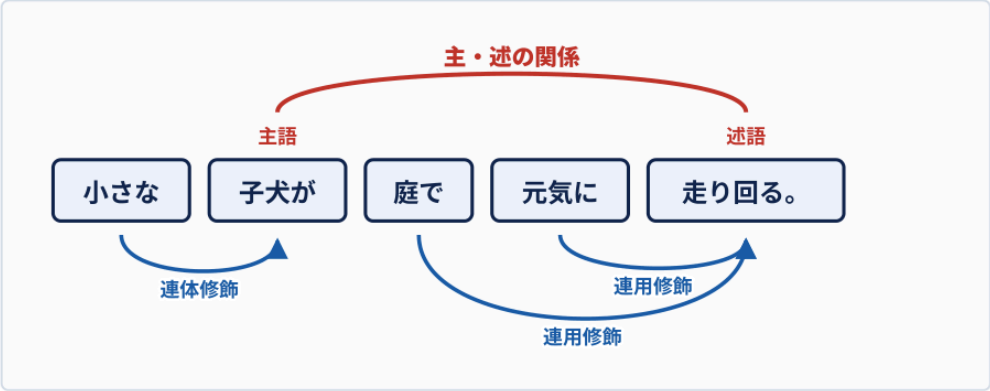
文節の切り方は「ネ」を入れてみる　「小さなネ／子犬がネ／庭でネ／元気にネ／走り回る。」――入るところが文節の切れ目です。**「小さな子犬が」をひとまとめにしない**のがポイント。
2(4)がいちばんのひっかけ　「委員長だ、彼こそ。」は**語順が入れかわった文**です。**先に述語を探す**のが鉄則――「委員長だ」が述語、では「委員長だ」なのは誰か→「彼こそ」が主語。**前にあるから主語**とは限りません。
「〜こそ」「〜も」「〜だけ」も主語になる　主語の印は「が」「は」だけではありません。2(2)「芸術は」、2(4)「彼こそ」――助詞が変わっても主語です。

三　文の組み立て②（3・4）　12点

3の解答　(1) 木が　(2) 読んだ　(3) 試合は　(4) 出て

4の解答　(1) 連体修飾語　(2) 連用修飾語　(3) 連体修飾語　(4) 連用修飾語

3と4はセットで考える　修飾される文節が**体言（名前を表す語）**を含むなら**連体**修飾語、**用言（動き・様子・状態を表す語）**を含むなら**連用**修飾語。「**体**言につくから**連体**」「**用**言につくから**連用**」と覚えます。
(3)がまちがえやすい　「昨日の」は「試合は」を修飾します。「楽しかった」を修飾していると答えたくなりますが、**「昨日の」は「どの試合か」を説明している**ので「試合は」のほうです。「いつ楽しかったか」なら「昨日」（「の」がつかない形）になります。



一つの文の中に、関係はいくつもある（三1(1)の文）

四　星の花が降るころに　18点

1の解答　(A) 銀木犀　(B) 夏実　(C) ボール磨き　(D) 古い葉

2(1)	**あたたかもしれない**	「あたたかい」＋「かもしれない」 2点
2(2)	**下の解答例のとおり**	8点

2(2) の解答例　思い出の場所にとどまるのをやめ、自分も新しく歩き出そうとする気持ち。（34字）

銀木犀は「変化」の象徴　おばさんの「春先に古い葉を落として、代わりに新しい葉を生やす」という話が、そのまま「私」の心に重なります。**木の話＝「私」の話**と読めるかどうかが、この作品の山です。
「木の下をくぐって出る」＝その場所から出ていく　夏実との思い出の場所にとどまらず、外へ出て次の一歩を踏み出す——これが結末の意味です。
字数は「程度」でも守る　四十字程度なら**32〜48字**。内容が合っていても、短すぎる答えは減点されます。

五　「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ　12点

1の解答　(A) きっかけ　(B) ヘビ　(C) 単語　(D) 仮説

2 の解答例　「地面や巣箱を確認しろ」という命令を伝えただけの 可能性が残るから。(31字)

この文章の骨組みは4つだけ　事実 → 仮説 → 検証 → 結論。検証が**2回**あるのがポイントで、**なぜ2回必要だったか**がいちばん問われます。

検証1では「別の説明」が消せない　親鳥の声を聞いたシジュウカラが地面を見下ろし、巣箱の穴をのぞいたのは、「ヘビを思い浮かべたから」かもしれないし、「確認しろという命令に従っただけ」かもしれない。**どちらとも言える状態**では 仮説を証明したことになりません。だから**ヘビのように動く小枝**を使った検証2で、実際に**ヘビの姿をイメージしている**ことを確かめました。

記述の型　「〜という可能性が残るから。」で結ぶとまとまります。「〜かもしれないから。」でも可。

六　案内文・推敲　10点

(1)	**日付（いつ行うのか）**	「開催日」「何月何日か」も可　4点
(2)	**日時／場所／持ち物（お願い）**	「連絡先」なども可。3つで3点
(3)	**ウ**	推敲は読み手の立場で見直すもの　3点

(1)は「書いてあること」ではなく「ないもの」を探す　場所・持ち物・開会時刻・駐車場――どれも書いてあります。**日付だけがない**。案内文の基本情報は**「行事名・日時・場所」**なので、ここから消していくと見つかります。

(2)項目を立てる＝ばらばらの情報をグループに分ける　下書きは体育館・上履き・九時・駐車場が文章の中に混ざっています。これを「日時」「場所」「持ち物」に分けて箇条書きにすると、読み手が探しやすくなります。

(3)ウが誤りの理由　推敲は**読み手に伝わるか**を見る作業。「自分が書きたいことだけ」はその逆です。選択肢に**「自分」**が出てきたら疑ってください。

分野別の配点

大問	分野	配点	得点	戻るところ
一	漢字の音訓	16		教科書 p.124〜126
二	漢字の読み書き	14		p.315〜316（還〜駐）
三	文の組み立て	30		p.147・246〜250
四	星の花が降るころに	18		p.106〜115
五	シジュウカラ	12		p.128〜139
六	案内文・推敲	10		p.116〜118
合計		**100**		

直前チェックシート

国語　後期中間考査　この範囲で覚えることは、これだけ

点数ごとの、残り日数の使い方

得点	いまやるべきこと
80点以上	記述（四2(2)・五2）だけ見直す。**字数**と、文末が問いに答える形（「〜気持ち。」「〜から。」）になっているかを確認。
60〜79点	落とした大問の**ワーク**をもう一周。
40〜59点	**漢字（一・二）と文法（三）で60点**あります。読解より先にこの2つ。特に漢字の音訓は範囲が3ページしかないので全部取れます。
39点以下	教科書 p.124〜126 の漢字を書き写し、**「まず述語を探す」**だけを覚えて三の2をやり直す。この2つで28点になります。

① 複数の音をもつ漢字

字	よく出る読み	もう一方
明	明星（**みょう**じょう）	明暗（めい）
星	星座（**せい**ざ）	明星（じょう）
有	有無（**う**む）	有益（ゆう）
望	所望（しょ**もう**）	希望（ぼう）
力	力説（**りき**せつ）	権力（りょく）

② 複数の訓をもつ漢字

字	読み分け
育	育む（はぐくむ）／育てる（そだてる）
汚	汚す（よごす）／汚い（きたない）
抱	抱く（だく）／抱く（いだく）／抱える（かかえる）
背	背比べ（せ）／背（せい）／背く（そむく）

③ 読みが2つある熟語

一行	いっこう（団体）／いちぎょう（文の行）
風車	ふうしゃ（発電など）／かざぐるま（おもちゃ）
分別	ふんべつ（わきまえ）／ぶんべつ（ごみを分ける）

④ 文の組み立て　—　迷ったらこの順

1. **まず述語を探す**。文の終わりを見る。
2. 述語に「**何が**／**誰が**」と問い返す。出てきたのが主語。
3. 出てこなければ**主語なし**と答える。

述語の形	例
どうする	走る・残す
どんなだ	忙しい・楽しい
何だ	委員長だ
ある・いる	いました・ある
ない	ありません

連体／**連用**　**体**言（名前）につく→**連体**修飾語／**用**言（動き・様子）につく→**連用**修飾語

⑤ 読解は「流れ」で覚える

星の花が降るころに

銀木犀の思い出 → 夏実に無視される → 戸部君のボール磨きを見る → おばさんの話（古い葉を落として新しい葉を生やす）→ 木の下をくぐって出る

シジュウカラ

ヘビに「ジャージャー」と鳴く（事実）→「ヘビ」を意味する単語ではないか（仮説）→ 検証1：地面・巣箱を見る（命令の可能性が残る）→ 検証2：動く小枝に近づく → 結論

⑥ 案内文・推敲

書く前に**何を・何のために・誰に**／基本情報は**行事名・日時・場所**／**項目を立てて箇条書き**／推敲は**読み手の立場**で（漢字・仮名づかい・送り仮名、符号、表現）